

平成30年度 土佐町社会福祉協議会事業報告書

〈事業総括〉

国では、一億総活躍プランを打ち出し、「子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことが出来る社会」を目指しています。しかし近年、超高齢社会に加え人口減少が進み、家族や地域での相互扶助機能が低下してきています。孤立死、自死、ひきこもりや虐待、悪徳商法、失業、経済困窮など、既存の社会保障・社会福祉制度ではなかなか解決に至らない問題も山積してきています。世帯内で様々な生活課題が絡み合って複雑化し、複合的な支援を必要とする事例がみられるようになりました。これまでのような対象者別、機能別といった「縦割り」の公的支援制度では対応が困難なケースが増加し、包括ケア体制の構築が急務となっています。

さらに地域福祉の基盤である地域で支え合う力が減退する速度も加速し始め、地縁団体の解散や集落の行事取りやめなどこれまで支え手の方々に限界が来ている状況が見えてきました。

土佐町社会福祉協議会は、このような厳しい現状を受け止め、包括支援センターをはじめあらゆる人や団体・企業等と繋がりをつくりながら、だれもが気軽に地域活動に参加していただける機会をつくり、家族的な支援が必要な方には細やかに対応するなど、社会福祉協議会としての役割を果たすべく努力してきました。

次年度は地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体的な策定をすることとなり、益々厳しくなる地域の現状をしっかりと見つめながら、土佐町と一体となった地域福祉事業を展開していかなければなりません。

法人運営部では、高知県の指導監査を受け、概ね良好ではありましたが、法令遵守にむけてさらに整備しなくてはならない点も明らかになりました。

働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律が施行され、これにあわせて労働基準局での指導助言を受けて規程を見直しました。

健全な経営のため、車両のリース契約に伴う買い替えの検討や、Windowsの保守に対応するために、計画的にパソコンを買い替えていくなど先を見通した経費の節減に取り組んできました。

また、高知県社協の助成・指導により、災害発生時初期行動計画を策定しました。今後は、総務課の地域防災計画との連携を図りながら、速やかな避難誘導や被災後の支援体制を構築していく必要があります。

在宅福祉部では、関係機関と連携し積極的なアウトリーチによる、包括的な相談支援や生活支援を行った結果、生活の中の困りごとに対応する件数が増え、職員が直接支援にあたる時間も年々増加してきました。

本年度より、生活支援介護予防連絡会の体制を整えるための協議を重ねた上で、社会資源集の作成に取り組みました。

生活困窮者支援では、伴走的な見守りや支援を続け、中央東福祉保健所から土佐町における粘り強い支援が評価されています。自立支援に向けた寄り添いや食料や生活物資などの現物支給を行うことで、世帯の自立の助長に努めてきました。

生活課題を抱えた方々を専門職や地域で連携して見守って行けるよう、包括との連携はもとより座談会の充実を図っていかなければなりません。

障害者支援では、れいほくの里どぐりの（シルクスクリーン）プリント製品づくりや、やまびこ倶楽部の取り組みを通じた居場所づくり、さらにあったかふれあいセンターや子どもげんき村（子ども食堂）へ気軽に出でられるよう環境づくりに努めました。

訪問介護は、常勤職員が一名減の中でサービス提供が厳しい状況にありましたが、登録ヘルパーの協力で乗り切ることができました。今後は、処遇の見直しを検討しながら、引き続きサービスの需要と供給のバランスに応じた、訪問介護員の確保に努めていかなければなりません。

地域福祉部では、活動計画の実現にむけ、地域の取り組みを後押ししてきました。中でも南川・瀬戸地域は人口が少数の集落にあって、集落外の協力を得て集落支援ができるように「瀬戸川ロマン」という団体を立ち上げることができました。今年、集落と関係ある方々との関係性をつくる事業に取り組むなど、南川・瀬戸地域の活性化をめざした取り組みが始まりました。

また、旧学校区ごとに「あったか推進会議」を開催し、活動に対し住民自身がどのような希望をもち、何を目標にしていくかを話し合いました。この話し合いによって住民がより主体的に取り組むことができるようになってきました。中でも、生活の困りごとなどを互いに共有することによって意識的に支え合うことに繋がっています。

さらに「とんからりんの家」を持続可能なかたちにしていくため、行政と協議を重ね、平成31年4月から行政より臨時職員を配置することとなり、社協は、現在の利用者に加えて誰もが集えるあったかふれあいセンターの田井拠点となるよう機能強化にむけた取り組みを進めて行くこととなりました。

ボランティアセンターでは、町内の各行事や子どもげんき村のボランティアを募集するなど、センターの機能が発揮されてきました。特に豪雨災害の支援として、タオルを収集し2,836枚を被災地に送ることができました。これは、ボランティアセンターが日頃から各関係機関と連携している効果が出てきたと考えられます。また、傾聴や介助ボランティア養成講座や手話の体験を通じた活動の広がりがみられました。

今後は、将来的な地域の現状をアセスメントにおいてしっかり把握し、そこから見えてくる強み弱みを見極めながら、地域支援体制について見直していかなければなりません



あったかにきた赤ちゃんをあやす参加者



(5) **社会福祉協議会のパンフレット等を作成し啓発利用**

5 回

(6) **地区長会における事業理解促進**

4 回

(7) **マスコミ・他の広報紙等への掲載**

- ▶ NHK 明日へつなげよう復興サポート
- ▶ RKC高知放送 つなぐ高知家の健康長寿(高知版地域包括ケアシステムの構築)
- ▶ テレビ高知 セタプロジェクト
- ▶ 日本福祉大学 ニュースレター・特集号
- ▶ 高知新聞 子ども元気村
ミニ88カ所 2回
音楽療法
百万遍祭り
とんからりんの家ご長寿
土佐町中学校動画

▶ NHKウェブサイト 地域づくりアーカイブ 高齢者がいきいきと支え合う町

(8) **告知端末放送の活用**

随時

(9) **各地域、団体を対象とした社協事業説明**

▶ 土佐町議会議員との懇談 11月 22日 1回

(10) **後援・共催事業の実施**

- ▶ 日本の教育の未来を考え語る会
- ▶ キッズアドベンチャー レイホクゴロワーズ2018
- ▶ 土佐町ミニ八十八カ所巡りウォーキング
- ▶ 活動計画に関するイベント

平石 あめぐつかみ取り大会
森 水仙の植栽
新井堰清掃

- 松ヶ丘 三地区合同花見
三地区芋煮会
三地区敬老会
- 相川 相川ららら(棚田ウォーキング 収穫祭)
愛校作業
- 石原 石原サマースクール
- 田井 東部地区運動会
- 瀬戸 瀬戸川で会いましょう
- 南川 百万遍祭り

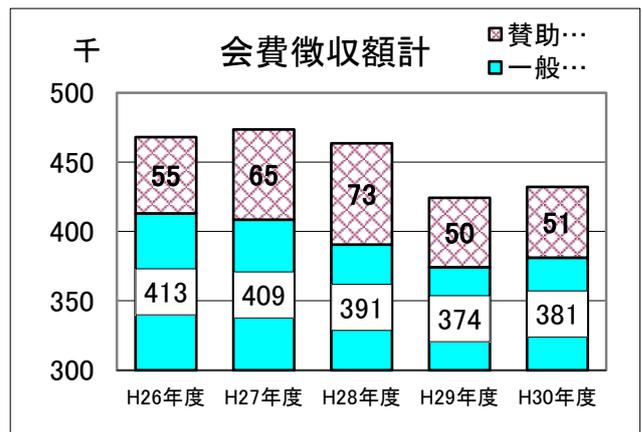
(11) **会費増強にむけた理事会・評議員会による協議**

1 回

- 会員加入推進と会費の徴収に努めた

(一般会員:300円・賛助会員:1,000円)

- ▶ 会費徴収額 381,100 円
- ▶ 一般会費 1,272 世帯
- ▶ 賛助会費 51人(役職員等)



(12) **基金の有効活用と運用計画作成**

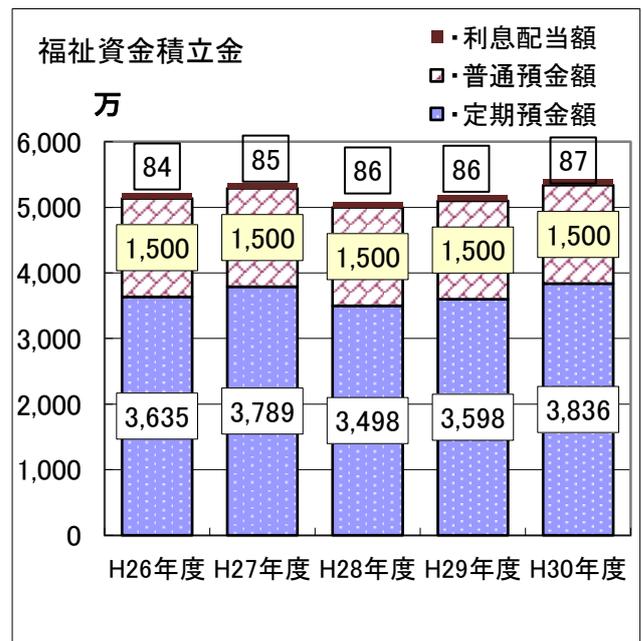
- 福祉基金積立

基金積立額

- ▶ 定期預金額 38,364,680 円
- ▶ 普通預金額 15,000,000 円
- ▶ 利息配当額 867,021 円

- 地域支援金事業の促進 (30年度実施事業)

- ▶ 相川4地区長会 100,000 円
- ▶ 平石地区 100,000 円
- ▶ 旧森小学校区内地区長会 100,000 円



(13) 受託事業等の実施と検証

- ▶ 補助事業 法人運営、心配ごと相談所開設事業、ボランティアセンター活動事業
- ▶ 助成事業 災害ボランティアセンター体制強化事業(県社協)
- ▶ 委託事業 一般介護予防事業、生活管理指導、職員派遣、認知症総合事業
あったかふれあいセンター事業
あったかふれあいセンター機能強化・拠点支援事業
生活支援体制整備事業、障害者相談支援事業
日常生活自立支援事業(県社協)
自立相談支援事業(生活困窮)(中央東福祉保健所)
- ▶ 介護保険 訪問介護
- ▶ その他 障害福祉サービス、団体事務委託

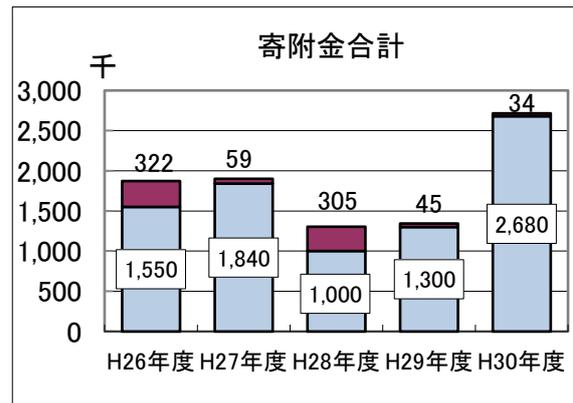
(14) 助成事業に積極的に応募するなど事業資金確保

- ▶ 配分金事業 老人福祉(給食)、福祉育成援助活動(福祉大会・広報)

(15) 募金、寄附についての学習会開催

- 学校において、共同募金の仕組みについて啓発 1回
- 地区長会において説明 1回
- 寄附活動への理解を促進し、福祉基金・事業資金への寄付を受け入れた

- ▶ 福祉基金寄附金 17人
2,680,000円
- ▶ 事業資金寄附金 1人・1団体
34,179円



(16) 共同募金利用団体との募金活動連携強化

- 共同募金について住民への周知に努め募金活動を実施した
 - ▶ 一般募金
目標額: 949,000円 実績額 932,422円
 - ▶ 歳末たすけあい募金
目標額: 30,000円 実績額: 0円
 - ▶ 共同募金配分金事業(一般募金配分額:532,566円)
高齢者福祉事業として老人給食材料費と配食ボランティアへの実費弁償費に、また社会福祉大会経費、広報費として活用した

- 日赤奉仕団の活動支援と共に、社資募集を行った
 - ▶ 日赤社資

目標額:	615,000	円	実績額:	579,800	円
------	---------	---	------	---------	---
- 地区長会の協力により、護国神社奉賛金を募り納付した
 - ▶ 納付額: 209,600 円

課題を明確にするため検証を重ね、事業を見直し、地域ニーズに沿った事業の推進に努めました。また目標に向かい一致団結して行動できる組織づくりをめざし取り組みました。

- (1) **社協強化・地域支援計画におけるPDCAサイクル実施**
 - ▶ 9月に中間報告を作成し、推進状況を確認
- (2) **職員会における定款・規程・要綱・マニュアルの確認**
 - ▶ パートタイム職員への説明 1 回
 - ▶ 嘱託職員への説明 1 回
- (3) **行政との事業評価と法改正に伴う事業見直し協議** 2 回
 - ▶ 出向している職員についての処遇・研修の在り方、生活支援コーディネーターの位置づけや、各事業の推進における方向性について協議
- (4) **団体事務の合理化と団体活動支援**
 - ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ連合会 ・遺族会
 - ・身体障害者協議会 ・日本赤十字社土佐町分区 ・日本赤十字社中央東地区
 - ・共同募金土佐町支会
- (5) **理事会(部会)の開催による協議** 5 回 (内 部会1回)
- (6) **評議員会による評議** 4 回
- 理事会・部会・評議員会の開催により事業計画と予算執行の安定かつ効果的な法人運営に努めた

会議日程	決議事項	参加人数
第1回評議員会 平成30年5月22日 18:30～18:50	・理事選任について	11 人
第1回理事会 平成30年5月29日 10:00～11:15	・平成29年度事業報告並びに収支決算承認について ・平成29年度会計監査報告について ・平成29年度補正予算書について ・定時評議員会開催について ・地域支援金交付に伴う交付決定について	理事 9 人 監事 2 人 計12 人
第2回定時評議員会 平成30年6月19日 9:00～10:40	・平成29年度事業報告並びに収支決算承認について ・平成29年度会計監査報告について ・平成29年度会計監査報告について	12 人
第2回理事会 平成30年9月27日 13:30～14:55	社会福祉大会長表彰・感謝状贈呈者推薦について 平成30年度新規採用職員の募集について 部会員構成について	理事 9 人 監事 2 人 計11 人
第3回理事会 平成30年11月22日 9:00～10:15	・平成30年度補正予算について ・規約改正について ・評議員会開催について	理事 9 人 監事 2 人 計11 人
第3回評議員会 平成30年12月7日 13:30～14:30	・平成30年度補正予算について ・事業の進捗状況について	10 人
第4回理事会 平成30年12月7日 10:00～11:45	・給与に関する規程改定について	理事 7 人 監事 1 人 計8 人
第5回理事会 平成31年3月19日 15:05～16:35	1) 平成31年度事業計画について 2) 平成31年度予算について 3) 平成31年度業務分担について 4) 評議員会開催について	理事 10 人 監事 2 人 計12 人
第4回評議員会 平成31年3月27日 15:00～16:05	・平成31年度事業計画について ・平成31年度法人本部拠点区分収支予算について	10 人

(7) 評議員選任解任委員会の開催

1 回

(8) 職員会 部会 主任会の開催と充実

- 主任会・職員会を実施し、健全な法人運営や事業経営をめざすとともに、報告・連絡・相談を徹底し各部門間の連携に努めた。

- ▶ 職員会 12 回
- ▶ 主任会 4 回
- ▶ 在宅福祉部会 3 回
- ▶ 地域福祉部会 6 回
- ▶ あったか職員連絡会 6 回
- ▶ 毎日ミーティングの実施

(9) 三役会の開催

2 回

- (10) **職員面談の実施** 2回 (役職員・事務局長)
4回 (個別面談)

専門機関からの支援を受け、コンプライアンスの徹底を図るとともに、職員の資質向上をめざし取り組みを進めました。

(1) **各研修・学習会への積極的参加**

- 職員の資質向上のため、他の社協への訪問や研修参加に努めた

▶ 法人運営・会計関係	3日	延べ	4人
▶ 在宅福祉事業関係	30日	延べ	33人
▶ 地域福祉事業関係	18日	延べ	22人
▶ 役員研修	2日	延べ	4人

(2) **大学・専門機関からの指導助言を促進**

- ▶ 日本福祉大学 4回
▶ 労働基準監督署 2回

(3) **法改正に則した諸規程の見直し**

- ▶ 給与に関する規程一部改訂
▶ 職員就業規則一部改訂
▶ 嘱託職員・臨時職員就業規則一部改訂
▶ 相談支援事業所運営規定一部改訂

(4) **第三者評価委員の設置** (未実施)

(5) **先進的な社協等との交流及び視察研修受け入れ**

- インターンシップや視察研修受け入れ
- ▶ 高知県四万十町社会福祉協議会
 - ▶ 岡山県吉備中央町議会議員
 - ▶ 高知学園短期大学 看護科
 - ▶ 高知市地区社協連合会
 - ▶ 日本福祉大学学び直しカリキュラム
 - ▶ 東洋大学
 - ▶ 愛媛県町社協サミット
 - ▶ 茨城県牛久市 議会議員
 - ▶ JICA ウガンダ公的機関職員研修
 - ▶ 高知県地域福祉政策課
 - ▶ 倉敷市中庄高齢者支援センター

(6) **危機管理の強化(情報漏えい・災害時対応等)**

- 災害時初期行動計画策定
- 前方転回型 嶺北地域総力戦の災害医療介護訓練に参加

(7) **学習会の開催**

- ▶ 年始研修 町の研修に参加
- ▶ 勝部麗子氏(豊中市社協)講演
- ▶ コミュニティワークリフレクション自主学习

(8) **文書の保存・廃棄等適切な管理**

- 年末に文書整理と廃棄実施

(9) **働きやすい職場づくり**

- ▶ 職員会議で業務中の問題点を共有し、事故防止に努めた
- ▶ 面談等において職員より要望を聞くなどして改善に努めた
- ▶ 検診料の基本額を支給

行政・各関係機関との連携をより強化し、地域福祉事業の位置づけを明確にできるよう取り組みました。また、町と一体となり、各諸計画に基づいた事業を推進するとともに、第5次地域福祉活動計画の実現にむけた支援の強化に努めました。

(1) **第5次地域福祉活動計画評価委員会の設置・運営**

- ▶ 8月10日 地域福祉活動計画評価委員会を実施した
評価委員・オブザーバー 10人 職員 2人 理事 1人

(2) **役職員の地域担当制の整備**

- ▶ 主任会・職員会にて地域担当の業務について協議を行った

(3) **行政各課との連携強化**

- 行政・社協相互の事業の理解と連携を図るため連携会議を開催した
▶ 健康福祉課との連携会議 (8/20、12/4) 2回

(4) **議会議員との懇談会開催**

- ▶ 11月22日 機能回復訓練室

(5) 町・県の実施する連携に関する会議への参加

町	▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会	12回
	▶ 役場地域担当者リーダー会議	3回
	▶ 役場地域担当者会	20回
	▶ 次年度予算について福祉課との連携会議	2回
	▶ 生活支援・介護予防連絡会	4回
	▶ 土佐町地域ケア推進会議	1回
	▶ 土佐町地域ケア会議(個別ケア会議)	5回
	▶ 障害者支援における事例検討会	4回
	▶ 土佐町要保護児童対策地域協議会実務者会議	3回
	▶ あじさいネット会議	1回
	▶ 障害のある方のケアについて保健師との連絡会	1回
	▶ 土佐町GKH打ち合わせ	1回
	▶ 土佐町地域密着型サービス運営委員会	1回
県・大学等	▶ 災害ボランティアセンター体制強化事業に係る打ち合わせ会	1回
	▶ 障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」平成30年度第1回中央東地区連絡会	1回
	▶ 生活困窮者自立相談支援事業 県・県社協ヒアリング	1回
	▶ 生活困窮者自立支援事業プレ支援会議	10回
	▶ 高知県社協あつたかふれあいセンター推進連絡会	2回
	▶ 平成30年度高知県生活困窮者自立相談支援機関協議会「中央ブロック会」	1回
	▶ 第2回圏域別権利擁護担当者意見交換会	1回
	▶ 県地域福祉部ヒアリング	1回
	▶ 生活福祉資金償還県社協ヒアリング	1回
	▶ 高知学園短期大学フィールドワーク打ち合わせ会	2回
	▶ 県生活保護就労支援協議会中央地域ブロック協議会	1回
	▶ 公益的な取り組みに関するブロック別意見交換会	1回
	▶ 高知県社会福祉協議会ブロック別 会長等意見交換会	1回
	▶ 学びなおしと自立支援事業連絡会	1回
	▶ 成年後見制度関係機関との連絡協議会	1回
	▶ 地域生活支援拠点等の整備促進、必要な機能の強化・充実のための都道府県ブロック会議	1回
	▶ 嶺北地域公共交通協議会	3回
連携事業等	▶ 地域のつどい連絡会	1回
	▶ 嶺北自立支援協議会 全体会	1回
	▶ 認知症予防事業 包括・行政との打合せ	2回
	▶ 介護予防事業 包括との打ち合わせ	1回
	▶ 福祉教育について学校長との打合せ	1回
	▶ 地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定に係る打ち合わせ	1回
	▶ 嶺北福祉医療の人材育成協議会(キャリア教育)	1回
	▶ 嶺北地域の災害ボランティアセンターの連携に関する情報交換会	1回
	▶ 土佐町見守り協定会議	1回
	▶ 平成30年度嶺北地区自殺対策・うつ対策市町村関係機関連絡会	1回
	▶ 医療介護連携 推進会議	1回
	▶ 日常生活自立支援事業専門員連絡会	1回
	▶ サニーマートムソーヤ打ち合わせ	3回
	▶ セタプロジェクト打ち合わせ	2回
	▶ れいほく地区障害者自立支援協議会 相談支援部会	2回

◆在宅福祉部門◆

身近で気軽に相談できるよう相談体制を強化し、訪問介護等により在宅における自立した暮らしを支援しました。

(1) 訪問介護における在宅生活支援

○ 人員不足傾向ではあるが、需要に合わせた安定供給に努めた

▶ 職員体制

サービス提供責任者:1人(正規職員・介護福祉士)

介護福祉士:2人(非常勤) 2級ヘルパー:3人(非常勤)

▶ 介護保険事業

訪問介護事業

対象者 年間 20人 (平成31年3月現在 12人)

介護予防・日常生活支援総合事業

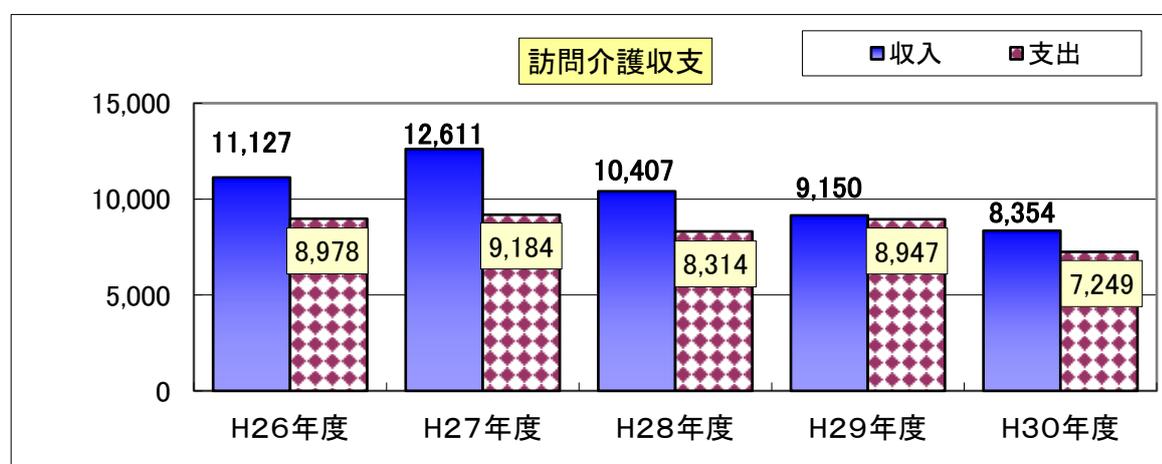
対象者 年間 14人 (平成31年3月現在 9人)

▶ 障害福祉事業

対象者 年間 4人 (平成31年3月現在 4人)

▶ 自立生活支援訪問事業(町委託金対象)

対象者 年間 0人 (平成31年3月現在 0人)



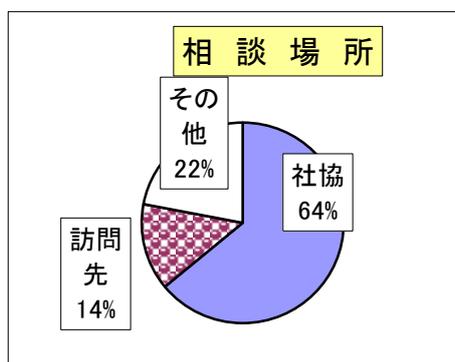
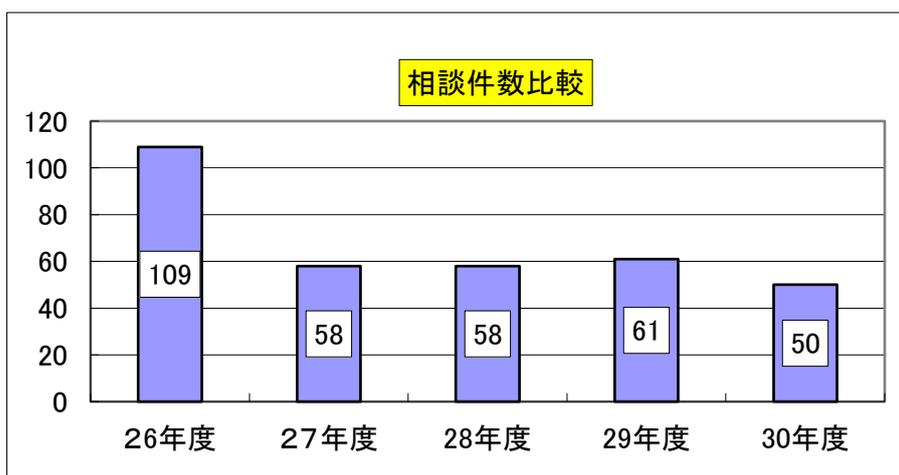
(2) 心配ごと相談所を活用した出張相談対応

12 回

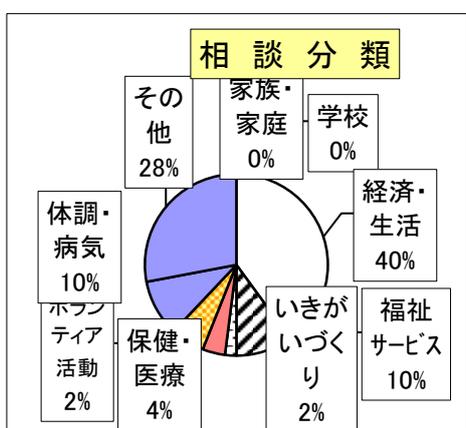
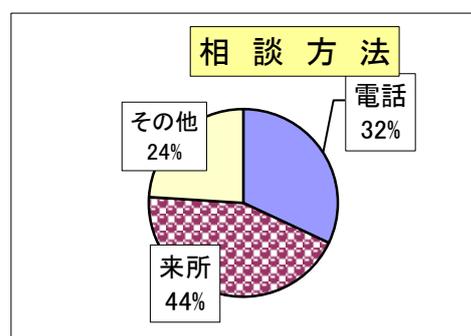
(3) 『きいてねっと』での電話や面談による相談対応

50 回

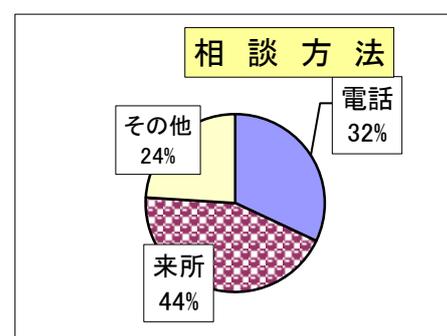
- 総合的な相談窓口として相談を受け付け対応した



相談場所		相談方法	
32	社協	電話	16
7	訪問	来所	22
11	その他	その他	12
50	計	計	50



相談分類		対応方法	
3	ボランティア活動	紹介・仲介	6
0	家族・家庭	情報提供	13
0	学校	相談のみ	8
20	経済・生活	VC連携	3
5	福祉サービス	職員対応	19
1	いきがいきづくり	継続	8
2	保健・医療		
5	体調・病気		
14	その他		
50	計	計	57



(5) 介護用品等に関する相談対応

2 件

制度やサービスの隙間にある方への個別支援体制を強化し、各専門職と連携し、個々の課題に応じた伴走的な支援体制づくりにむけて取り組みました。

(1) **生活困窮者自立支援法に基づく自立支援**

総合相談窓口として相談を受け、各機関と連携し対応に努めた

- ▶ 県・中央東福祉保健所・県社協・嶺北4町村社協等と、支援についての協議、連携
- ▶ 関係機関、各団体等の会合・あったかふれあいセンター等に参加し、協力依頼、情報収集
- ▶ 定期的に各支所、図書館等に関連チラシ等配布、協力依頼、情報収集
- ▶ 各事業所等において雇用に関する協力依頼
- ▶ プレ支援会議が定期的に開催され、各関係機関との連携や、支援が必要な住民に対する効果的なアプローチについて意見交換
- ▶ 県社協フードバンクと連携し、食糧支援
- ▶ 嶺北地域出張ハローワーク開設協力
毎月第三火曜日午後1時から土佐町農村環境改善センターにおいて開設
(土佐町が代表で毎月部屋予約)
嶺北4ヶ町村の生活困窮者自立支援事業利用者・生活保護受給者が利用
- ▶ 子ども食堂「子ども元気村」の開設支援
- ▶ 研修会、説明会、連絡会等へ参加 6 回
- ▶ 個別訪問等で情報収集、要支援者支援 延べ 143 件
- ▶ 自立相談支援機関受付件数 20 件
 - ・ プラン作成 7 件 (前年度からの続行あり)
 - ・ 同意に向けて取り組む 2 件
 - ・ 他機関につなぐ 4 件
 - ・ 情報提供のみで終了 8 件
 - ・ 相談継続 2 件
 - ・ その他(窓口で完結、打ち切り、解決) 4 件 (上記重複あり)

(2) **相談支援員・主任相談支援員配置による支援体制整備** 各 1 人

(3) **障害者総合支援法に基づく計画相談及び自立支援**

- 一般相談事業を受託し、障害(児)者の相談支援を実施した
 - ▶ 土佐町 32 人 対応時間 289.5 時間
- 指定特定相談支援事業(計画相談支援)の状況(平成31年3月末現在)
 - ▶ 土佐町 24 人

(4) **日常生活自立支援事業による生活支援**

○ 高齢者や障害者の方などが自分ひとりで判断することが難しくお困りの場合に、安心して日常生活が送れるように支援に努めた

- ▶ 利用者 2 人 (認知症高齢者1人・知的障害者1人)
- ▶ 利用内訳 日常的金銭管理サービス 1 人
書類などの保管サービス 1 人
- ▶ 関連支援 制度利用準備中 4 件

○ 生活支援・介護予防連絡会の開催 4 回

(5) **生活支援員による支援体制整備**

- ▶ 担当者 専門員(職員)1人 + 生活支援員 1人

(6) **低所得者層への福祉資金貸付けによる自立生活への支援及び償還指導**

- ▶ 生活福祉資金貸付事業委託事務
- ▶ 県社協の行う貸付事業に対し、民生児童委員協議会とともに、債務者への償還指導ならびに、貸付相談に応じた

平成31年3月31日現在 貸付件数	4 件
-------------------	-----

平成30年度 新規貸付	0 件
-------------	-----

高知市社協より移管により貸付件数1件増加

○ 小口生活福祉資金貸付事業(自主財源:500,000円)

低所得者の在宅生活の自立更正を図るための相談に応じ、適切な資金貸付を実施し、償還指導に努めた

▶ 平成31年3月31日現在 貸付件数	1 件 (内保護費受給者0人)
---------------------	-----------------

▶ 平成21年度 貸付滞納件数	1 件 (最終償還日 H30.10.31)
-----------------	-----------------------

▶ 平成30年度 新規貸付	0 件
---------------	-----

相談3件あるも事業非該当で貸付なし

(7) **介護家族会の開催** 5 回

- ▶ 介護家族のつどいにて排泄介助や便秘解消についての学習会を開催 1回

(8) **認知症サポーター養成等理解促進のための学習会を開催**

○ 認知症総合支援事業

- ▶ あじさいネット会議の開催 1 回

- ▶ 多職種協働による事例検討・ケアパス検討会を実施 1回

- ▶ 次年度の取組みについてアンケート調査を実施
(各事業所の研修状況、研修内容等)

- ▶ 認知症に関する正しい知識の普及啓発活動

テーマ	月日	参加人数	講師
回想法と認知症についての学習会(地蔵寺)	9月4日	13人	キャラバンメイト:和田純一
認知症についての学習会(美松)	12月25日	17人	キャラバンメイト:和田純一・川田美代子
認知症についての学習会(駒野)	1月10日	12人	キャラバンメイト:和田純一

- ▶ キャラバンメイトフォローアップ研修会参加

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症カフェ交流研修会	9月13日	3人	藤田保健衛生大学医学部 認知症・高齢診療科 武市一教授

- ▶ キャラバンメイト養成研修会へ参加 未実施

- ▶ 認知症サポーター養成講座 未実施

- ▶ 認知症の方も役割を持てる地域づくりを目指し学習会を開催。

とんからりんの家ボランティア・あったか地域サポーター対象に学習を開催

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症を理解するために大切なこと (講座・寸劇)	H31年1月22日	17人	講師:早明浦病院 藤澤道子医師 協力:北村保健師、田岡保健師、山崎ケアマネ

- ▶ あったかふれあいセンター集いにて認知症の方をサポート

あったかふれあいセンター平石・地蔵寺の集いにてキャラバンメイトによる支援 18回

- ▶ 認知症の方も楽しめる集いの場づくり

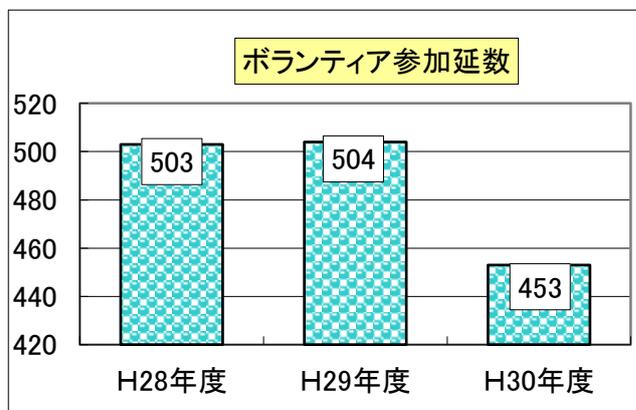
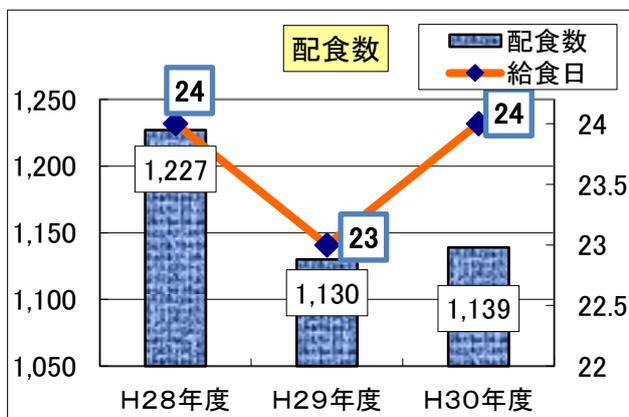
テーマ	月日	参加人数	講師
回想法体験	4回	51人	和田純一、川田美代子、伊藤資子 (キャラバンメイト)

- ▶ 土佐町立図書館での啓発活動を検討

1回

(9) 老人給食を活用した声かけ訪問による状況把握

- ▶ 給食日 24 回
- ▶ 対象者 85歳以上独居高齢者又は会長が必要と認めた者
独居高齢者(月2回) 57人
- ▶ 総配食数 1,139 食
- ▶ ボランティア 調理 207人 配食 246人 延 453人
(内民児委員) 調理 71人 配食 94人



(10) 傾聴ボランティアによる寄り添い関係の構築

○ 傾聴ボランティア活動により、継続的な見守りと孤立予防活動が促進された

- ▶ 対象者 5人 24回

(11) 在宅福祉サービスの苦情処理対応 2件

(12) 地域包括支援センターをはじめ、行政や民児協等関係機関(者)との連携による協働支援(ケース会の実施) 43回 内ネットワーク面談21回

必要な支援・サービスを受けられるよう、細やかなニーズ把握を行うと共に、自然災害や事故・犯罪に巻き込まれないよう日常のつながりづくりを強化しました。

- (1) 民児委員・福祉推進員による地域の実態把握 随時
- (2) 民児委員と連携したふれあい郵便の発送 年間対象者 37人 12回
- (3) 旧小学校区における地域見守り支援体制づくり(で愛ふれ愛たすけ愛懇談会)
▶ あったか推進会議との協働実施へ移行
- (4) 警報発令時の声掛けの定着化 民児協等意識啓発 2回

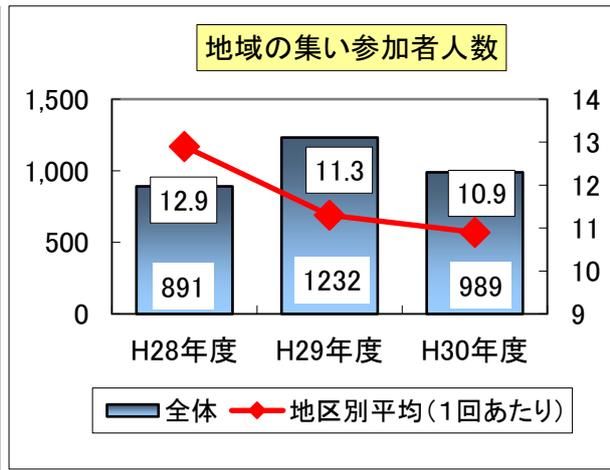
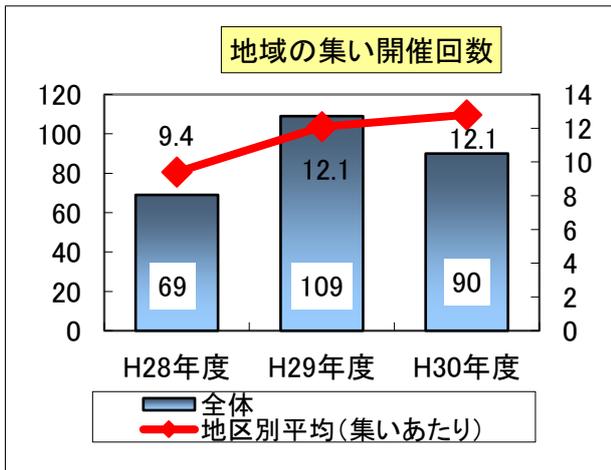
- (5) **高齢者世帯防火防災点検の実施**
- 嶺北消防署、本山警察署、四国電力と協力して、独居高齢者本人と住居に対しての防火点検、防犯意識の啓発を実施
 - ▶ 4月 18日 対象世帯：5世帯(9人) 実施地区；五区・相川
 - 嶺北電気工事業組合のボランティア事業で、電気に関する点検や配線の簡易な修理を4年に1度巡回実施
 - ▶ 本年度実施無
- (6) **町外の家族とのつながりづくりにむけた検討** 未実施
- (7) **民児協と連携した学校・保育・保護者とのつながりづくり**
- ▶ 民児協・教育委員会・学校と検討し、つながりづくりの為の活動を実施
- (8) **障害(児)者のいる世帯への防犯・防災への啓発** 未実施
- (9) **見守り協定団体・警察との連携会議の実施** 未実施
- (10) **要保護児童対策地域協議会へ参加し連携強化** 3回
- (11) **嶺北地区自立支援協議会へ参加し障害者の課題解決にむけた取り組み**
- | | |
|----------------------|----|
| 土佐町部会 個別事例検討 | 4回 |
| れいほく地区障害者自立支援協議会 全体会 | 1回 |
| 就労支援部会 | 2回 |
| 相談支援部会 | 2回 |
| 集える場づくりプロジェクト会 | 0回 |
- ※相談支援部会で「集える場所」については嶺北各町村で足固めを行う。嶺北全体での研修会を実施し、つながりづくり、啓発を図っていく。

健康福祉課や関係機関との連携を強化し、ふれあいの場づくりを推進するとともに、外出支援体制をつくりました。

- (1) **車椅子貸し出し** 10回
- (2) **フィールド医学事業と連携し、介護予防普及啓発事業(町受託)の推進**
- 地域での転倒予防体操普及に努めた

▶ 地域の集いにおける転倒予防運動の実施

実施集い人	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
中島ふれあいの集い	8	20	108	
上野・田井ふれあい喫茶	9	34	171	
桜会	10	19	89	
上ノ土居の集い	7	22	84	
田井なでしこふれあいの集	8	40	177	
舞田の集い	12	13	83	
三島会	36	11	277	
合計	90	159	989	



▶ あったかふれあいセンターにおける転倒予防運動の実施

サテライト拠点	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
平石	11	17	150	
地藏寺	22	28	299	
和田	9	15	85	
森	11	20	98	
石原	10	21	133	
松ヶ丘	10	21	167	
相川	11	24	132	
南川	11	11	84	
黒丸・下瀬戸	2	6	9	
とんからりんの家	180	40	2,693	
合計	277	203	3,850	

▶ 老人クラブを中心とした転倒予防運動の実施

団体名	回数	参加人数		備考
		実人数	延べ人数	
土居和みの会	30	23	450	平成30年度より毎週木曜日は体操の日として開催

- ・ サポーターとして体操教室(地域のつどい)へ参加 延べ 141 人
- ▶ トレーニングサポーター養成講座開催 1回 19名参加
- ▶ 浜田りえ理学療法士指導による体力測定や、前田郁健康運動指導士による体操教室
23ヶ所 370人
- ▶ 任意団体と連携し地域住民を対象としたウォーキング教室を開催
1回 17人
- ▶ 若い世代に向けての普及啓発教室を開催(からだまるごと健康講座・男の料理教室等)
(健康運動指導士、管理栄養士)
3回 52人
- ▶ 自主運営体操教室開催支援(舞田の集い、土居和の会) 42回
- ・ 自主運営に向けた準備 (CD・スタンプ等体操グッズ準備)

(3) 介護予防等の事業における送迎

- あったか強化事業により、送迎の充実が図れた

(4) ひとりぐらしの集いの実施と事業の見直しを検討した

- ▶ あったかふれあいセンターへ誘い出し訪問を実施

(5) 身障協等と連携し、社会参加への取り組みを協議

- ▶ 室戸市への外出支援 1回

(6) 行政、ボランティアと連携し「やまびこ倶楽部」等で地域とのつながりを支援

- ▶ やまびこ倶楽部 5回
- ▶ デイケア交流会 あったかハートふれあい大会に協力 2回

(7) 障害者の移動手段確保

- ▶ 送迎のニーズに全て対応した

(8) どんぐりにおける外部就労体験の場づくりを支援

- ▶ JA・清掃事業等への就労支援
- ▶ 三島ファームでの作業
- ▶ 「土佐町ものがたり」Tシャツプリント作業

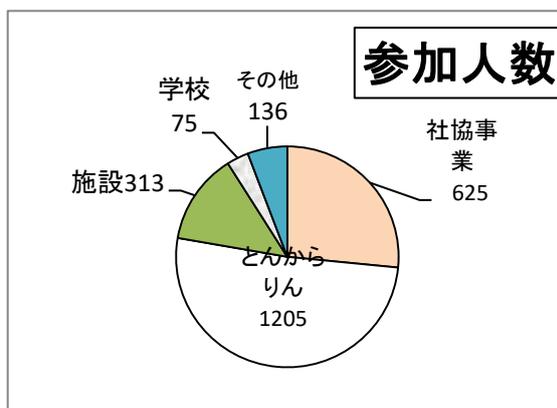
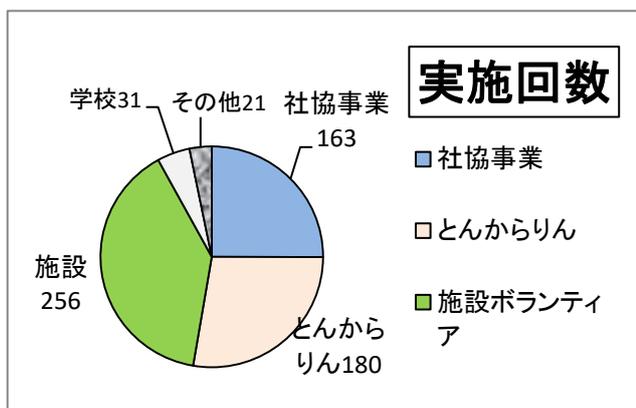
◆地域福祉部門◆

センターの役割や、ボランティア活動の見える化をすすめるため、広報・啓発を強化しました。

- (1) **ほにゃらら新聞の発行** 3回 (1,340部/1回)
- (2) **ボランティアに関するパンフレット作成・利用**
 - ▶ 地区長会にてボランティア活動募集のチラシをつくり配布をした
- (3) **社会福祉大会等活動発表の場づくり**
 - ▶ 活動発表 ⇒ 土佐町中学校2・3年生、土佐町小学校4年生
- (4) **TV放送・新聞・他機関の発行する冊子等への掲載**
 - ▶ 法人運営部 (7)と同様

ボランティアの養成、登録を推進し、それぞれの年代が、参加しやすい活動を推進しました。

- (1) **個人・団体の登録を推進** 29 団体(1,200人) 個人 56人
 - ▶ 機材貸出しや印刷機利用など登録団体への支援を行った
- (2) **ボランティア登録・相談及び実績記録を整備した**



- (3) **ボランティア活動推進のための協議会を設置**
▶ 設置に向けてNPO団体との懇談会を開催し、次年度につなげた
- (4) **企業へのボランティア活動普及のための訪問**
▶ エール薬局 薬剤師による地域における服薬に関する学習 5回
薬剤師による家庭訪問における服薬指導 1回
- (5) **児童生徒・PTAへのボランティア活動の促進**
▶ 嶺北高校生 あったかふれあいセンター長期休暇プロジェクトへのボランティア募集
▶ 土佐町中学校1年生 総合学習にて自分達でできるボランティア活動の実践
▶ ほにやらら新聞を通じて、ボランティアプログラムを紹介した
- (6) **ボランティアに関する研修への参加**
▶ 10月24日 災害ボランティアセンター中核スタッフ研修 2人
▶ 2月2日 嶺北地域総力戦の災害時医療救護訓練 3人
▶ 3月2~3日 全国ボランティアコーディネーター研究集会 1人
- (7) **ボランティア養成講座の実施**
▶ 傾聴ボランティア養成講座 11人
▶ 介助ボランティア養成講座 9人
- (8) **ボランティアに関する調査実施・情報収集**
▶ 31年度実施予定
- (9) **見守り 声掛けボランティアの推進**
▶ 地域福祉活動計画懇談会での協議の際、促進を図った
▶ あったかの集い参加促進を図り、利用者に呼びかけを行った
- (10) **日常行われている地域でのボランティア活動の見える化**
▶ ほにやらら新聞にて紹介 3回
▶ フェイスブックにて紹介
- (11) **家庭でできるボランティア(プチボラ)推進**
▶ ほにやらら新聞にて記事掲載 3回

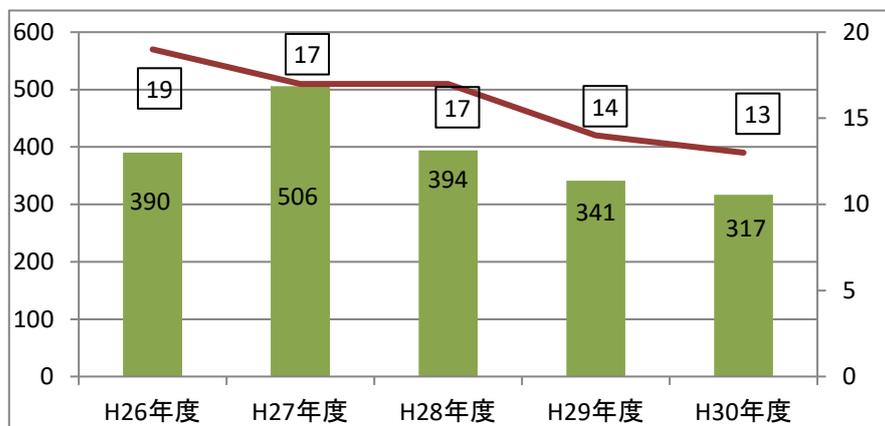
(12) **新たなボランティアの発掘**

○ こどもげんき村(こども食堂)の立ち上げを支援し、ボランティア活動による拠点づくりをすすめた

- ▶ 新規登録者 12 人
- ▶ 新規登録団体 3 団体

(13) **ボランティア活動保険への加入促進**

30年度保険加入件数 13 団体 317 人



(14) **ファンドレイジング等資金づくりにむけた学習・研修参加(未参加)**

(15) **災害ボランティアセンターの訓練及び研修**

- ▶ 7 月 11 日 大月町災害ボランティアセンターに派遣 1 人
- ▶ 10 月 24 日 災害ボランティアセンター中核スタッフ研修 2 人

(16) **NPO・ボランティア団体への活動支援**

○ 企業、団体の活動支援とボランティア募集を行った

- ▶ 4 月 14 日 森の音楽会
- ▶ 7 月 7 日 岡田孝夫ミニコンサート(早明浦病院)
- ▶ 6 月 3 日 相川らららウォーキング
- ▶ 7 月 28 日 はじめての手話教室1回目
- ▶ 8 月 15~17 日 レイホクゴロワーズ
- ▶ 8 月 20~22 日 サニーマートトムソーヤアドベンチャースクール
- ▶ 8 月 22 日 石原サマースクール
- ▶ 10 月 27 日 秋のおもしろスポーツ体験イベント
- ▶ 11 月 3 日 瀬戸九郎丸カフェ
- ▶ 11 月 4 日 松ヶ丘防災訓練&芋煮交流会
- ▶ 11 月 6 日 瀬戸川ロマン企画～紅葉の瀬戸川で会いましょう～
- ▶ 11 月 8 日 フラワーアレンジメント(中島のつどい)
- ▶ 11 月 17 日 はじめての手話教室2回目
- ▶ 11 月 18 日 相川らららウォーキング
- ▶ 11 月 25 日 森郷ミニ八ヶ所巡りウォーキング
- ▶ 12 月 5 日 厄除けづくり(中島のつどい)
- ▶ 12 月 25 日 セタプロジェクト

- ▶ 1月20日 土佐町駅伝
- ※ 豪雨災害支援のためタオル寄付の募集を実施6回(送付、持込)2836枚 延べ63名
- ※ 子ども元気村、手話サークル、森郷ミニ88を楽しむ会活動支援 通年
- ※ 図書館ボランティア活動支援

(17) ボランティア団体・関係機関とのぼらせん交流会の実施

- ▶ 2月12日 NPO意見交換会
- MPO同士の情報交換の場が欲しいというニーズが見え、定期的を開催することとした

(18) レク資材・印刷機等貸し出し

- ▶ レク資材 プロジェクター等資材 24回
- ▶ 印刷機利用 11回

学校・地域・教育委員会と連携し、福祉教育・ボランティア学習をより充実させることにより、次世代を担うボランティアの育成に努めました。

(1) 保・小・中・高との連携のための会議開催

- ▶ 土佐町小・中学校校長と小・中総合学習の系統などについて協議 1回
- ▶ 嶺北高校とキャリア教育支援事業についての協議 1回
- ▶ みつば保育園との事業打ち合わせ 1回

(2) 教職員・行政職員等にむけた福祉教育の研修会開催(未実施)

(3) 授業カリキュラム作成へのサポート

- ▶ 土佐町中学校1～3年生総合的な学習の時間等への支援 21回
- ▶ 土佐町小学校 2回
- ▶ 嶺北高校1～3年生福祉の人材育成にむけたキャリア教育 4回

(4) 学校応援・授業支援ボランティアの調整

- ▶ 土佐町中学校授業講師のコーディネート 11回 38人 (延べ)
- ▶ 土佐町中学校2年生職場体験コーディネート 1回(7か所)
- ▶ 土佐町中学校1・3年授業地域住民ボランティア調 6回
- ▶ 嶺北高校授業講師のコーディネート 1回 9人
- ▶ 嶺北高校職場体験コーディネート 1回(6事業所)

第5次地域福祉活動計画が住民に浸透するよう努めると共に、住民・行政・社協が協働できる体制をつくり、目標達成にむけた地域活動の支援を強化に努めました。

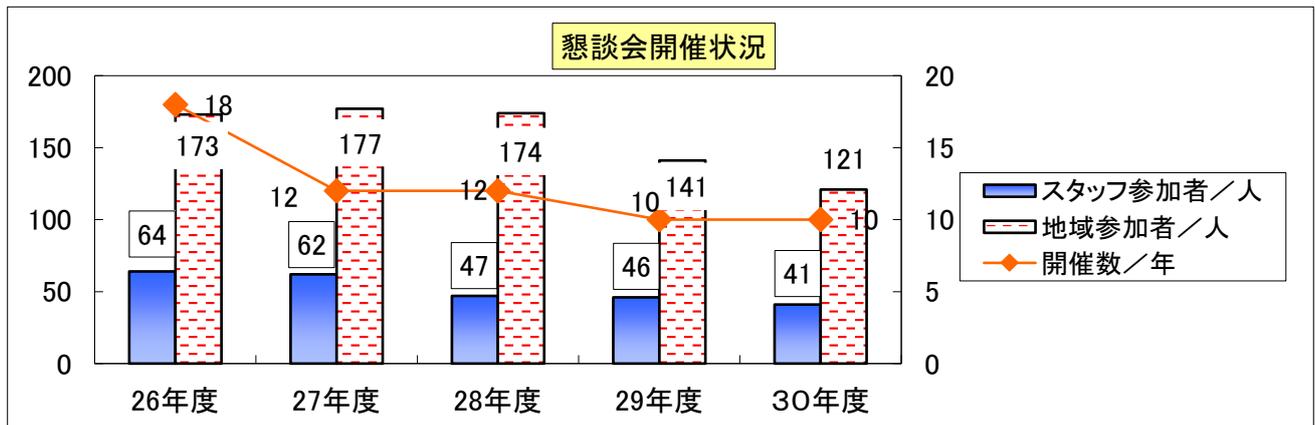
(1) 地域アセスメントシートを活用した地域支援

- ▶ 地域アセスメントシートを更新。評価委員・職員・関係機関職員に配布し共有した
- ▶ 生活支援介護予防連絡会等で、用いて協議をした

(2) 住民同士の話し合いの場づくりを支援(旧小学校区)

- ▶ 活動目標の達成に向け、活動計画を推進する懇談会を旧小学校区単位で実施した

10回



- 活動目標推進に向けた推進団体等の話し合いへの支援を行った

20回

- ▶ 相川10回、松ヶ丘5回、平石1回、南川1回、田井2回、森1回

(3) 地域活動支援交付金の活用を促進

- ▶ 地区長会にて交付金の説明
- ▶ 各小学校区の懇談会にて交付金の申請を促進
- ▶ 森・相川・平石の3小学校区が、活用
- ▶ 寄付者に支援金の使途について通知

(4) 中・高・大学生の参加促進

- ▶ 相川ららら イベントを通じて小学生から高校生まで幅広いボランティアの協力を得た
- ▶ 瀬戸 嶺北RYNがツリーテラスを活用したカフェを実施した
- ▶ 石原 高知大地域協働学部が地域活動や地域の話し合い等に参加

(5) 支援員・協力隊等地域支援における連携会議開催及び協力体制づくり

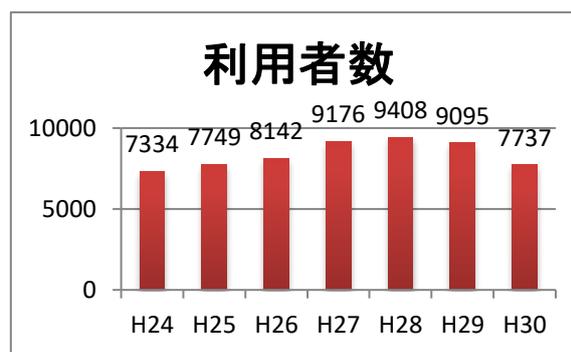
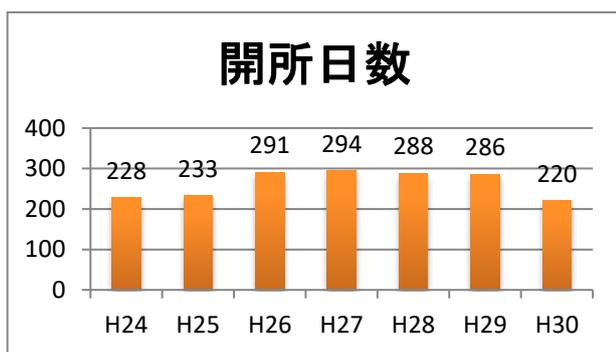
- ▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会を開催 12回
- ▶ 役場地域担当者リーダー会議に参加 3回
- ▶ 役場地域担当者会に参加 16回

専門職等との連携を強め、あったかふれあいセンター機能の充実を図りました。また、住民同士の支え合いの拠点づくりを進め、いつでも気軽に利用できるセンターづくりを進めました。

(1) **10か所におけるサテライト開設**

○ あったかふれあいセンター事業を受託し、サロンCoを2人(内1名、退職に伴い、11月より臨時職員)を雇用した

▶ ① 集う	220日	延べ	7,737	人
▶ ② 交わる(地域間交流・保育園児・視察 他)	23日	延べ	1,196	人
▶ ③ 学ぶ	11日	延べ	128	人
▶ ④ 送る	213日	延べ	1,962	人
▶ ⑤ 外出支援	6日	延べ	104	人
▶ ⑥ 訪問	61日	延べ	484	人



(2) **利用していない方等へのアプローチ (訪問)**

▶ 地域サポーターと、利用していない地域住民をピックアップし利用者の拡大を図った。

(3) **異世代・地域外との交流の機会をつくる (交流)**

▶ 夏休みプロジェクト	2回	110人	(高齢者11人、障害者2人、他13人、子ども84人)
▶ 冬休みプロジェクト	1回	46人	(高齢者18人、障害者1人、他9人、子ども18人)
▶ 春休みプロジェクト	1回	51人	(高齢者10人、障害者2人、他20人、子ども19人)
▶ みつば保育園児交流	4回	590人	(高齢者51人、障害者2人、他5人、子ども532人)
▶ 地域外の方との交流	7回	108人	(高齢者93人、障害者7人、他7人、子ども1人)

(4) **学習プログラムなどを取り入れ機能を強化する (学ぶ)**

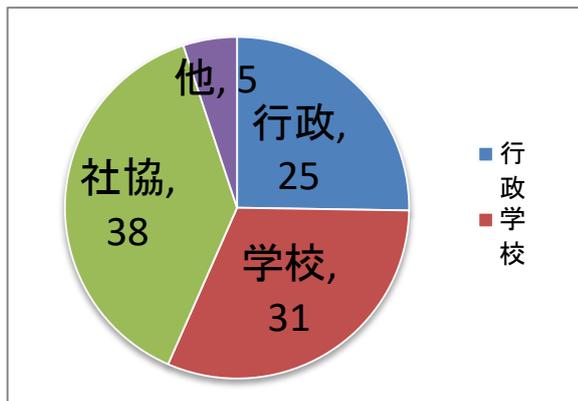
11回 173人 (高齢者142人、障害者3人、他18人、子ども10人)

(5) **運転手の確保等送迎体制の充実 (送迎) にむけ行政と検討**

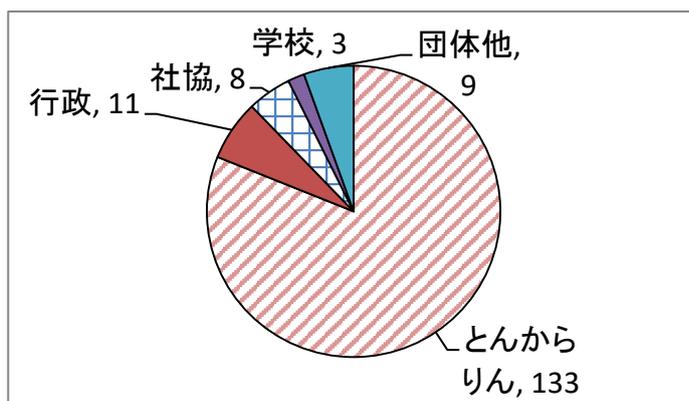
- ▶ ゆうあい号・バスを有効活用し送迎の支援をした。
- ▶ あったか強化事業において、送迎における運転手雇用継続ができた。
- ▶ あったかサテライトと集いの実施地区における外出支援(おでかけ)の送迎

あったか	21回
地域の集い	4回

社協バス 利用回数 99回



ゆうあい号利用回数 164回



(6) あったかふれあいセンターへのボランティアコーディネート 200回 1,254人

- 長期休暇に子どもたちが地域の方とふれ合えるプロジェクトを実施し、高校生などのボランティアの参加につながった。

(7) 各集い 全体会の実施

- ▶ あったかフェスティバル 整理券配布数 260人
- ▶ 地域の集い連絡会 6人

(8) 拠点化と集いを支えるスタッフの配置

- ▶ あったかふれあいセンター強化事業を受託しパート職員配置 7人
- ▶ サテライト開設時の送迎運転手をシルバーより派遣し配置 2人

(9) 包括、保健師と連携した利用者ケア会議の実施

生活支援介護予防連絡会をH30年度より、開始。包括や保健師、生活支援コーディネーターと社協職員が一同に会し、個別ケースや、社会資源集の作成等について協議した。 4回

(10) 住民の役割・出番づくりと自主運営への支援

- ▶ トキワ苑福祉充実予算における地域福祉事業立ち上げへの支援
- ▶ 移住者や県内外からのボランティア活動支援
- ▶ あったかフェスティバル、地域のつどい等での出番づくり
- ▶ 老人クラブの各クラブ立ち上げと運営支援
- ▶ 子ども元気村、土佐町ミニ八十八ヵ所を楽しむ会、手話サークルほのぼの3団体の新たな自主運営団体の支援を行った。